

青山俊薫著「道元禅師に学ぶ人生 - 典座教訓をよむ - 」

NHK ライブラリー、NHK 出版 2005 年 3 月 20 日刊を読む

- 1 . (1) 「宿無し興道^{こうどう}」と呼ばれ慕われた沢木興道^{さわきこうどう}老師の言葉に、「宗教は生活である」という一句があります。
 - (2) ご利益信仰でもなく、学問や思想などのような観念の遊びでもなく、仏像や伽藍などのような芸術でもなく、まして渡世の職業でもない。
 - (3) たった一度の、かけがえのないこの生命の今を、最高に洗練された生き方で生きる。
 - (4) その生き方を具体的に教え導くもの、それが宗教であり、特に道元禅師の教えがそれだということです。
- 2 . (1) 洗面の仕方からはじまって、廊下の歩き方、料理のときの心の運び、作られた料理をいただいたときの心構え、お便所での用の足し方、夜の寝方に至るまで、具体的に、懇切丁寧にお示しくださっておられます。
 - (2) これほどまでに高邁^{こうまい}な教えを、これほどまでに具体的に日常生活と不離一体の形でお説きくださった方は、日本のみならず、中国、インドとさかのぼっても稀有^{けう}な存在であろうと思われます。
 - (3) 道元禅師の沢山の著作の中でも、『典座教訓^{てんざきょうくん}』は、その具体的生活指導という点において代表的著作の一つといえましょう。
- 3 . (1) その『典座教訓』に私をはじめて出会ったのは、十六、七歳の頃、尼僧堂へ入堂して2、3年めであったかと思えます。
 - (2) その頃は文字面を追うのが精いっぱいでした。
 - (3) 以来半世紀あまり。尼僧堂の雲水達に、あるいは各地での参禅会などで、さいわいに聴いていただく方のあるおかげで、幾度か拝読させていただくことができました。
 - (4) そのたびに、道元禅師の御前に座り、道元禅師より親しく、そしてはじめて聴かせてい

ただ、そんな思いで拝読させていただいて参りました。

(5)読むほどに新しい発見があり、あるいはそれまでの受けとめの間違いや浅かったことなどに気づかせていただくことができました。

4.(1)古来より、出会いは人生の宝と申しますが、誰に出会うか、どんな教えに、言葉に出会うかで、私の人生も変わると申せましょう。

(2)さりながら、「声なきを恨まず、耳なきを恥じる」で、あまりにも受け皿が小さく、途方にくれるばかりですが、「仏道は、初発心のときも仏道なり、成じょうしょうがく正覚のときも仏道なり、初中後ともに仏道なり」(『正法眼蔵』説心説性)のお言葉にはげまされ、歩みつづけたいと思うことです。

[コメント]

栃木県大田原市黒羽の大雄寺でも撮影された、道元禅師の一生を描いた角川映画「禅」で、「典座」について紹介されている。本書は、「典座教訓」について平易に誰にでもわかりやすく説いているため、熟読再読し、少しでも自分の生活に参考にさせて頂けば、必ず一人ひとりの人生をよりよくするものと考えます。

- 2009年2月1日林明夫記 -